

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第3四半期は、米国の通商政策の影響等により世界経済の見通しの不透明感が継続したほか、需給の逼迫等により原材料価格が高騰した一方で、脱炭素社会の実現に向けたGX投資や、生成AI・デジタル技術の活用拡大を背景として、電力、製造業及びデータセンター等における設備投資が堅調に推移しました。

このような環境のもと、当社は、エネルギー需要の増大に伴う再生可能エネルギーや電力の安定供給システムの拡大及び、省エネ・電化のニーズを捉えて、プラントシステム事業の拡大を推進したほか、デジタル技術を活用した生産現場の生産性向上による収益力の強化に取り組み、売上高、営業利益、経常利益は過去最高を更新しました。

堅調なプラントシステム事業の更なる受注の拡大を図り、過去最高の通期業績を目指します。

世界情勢は混沌が深まり、不確実性がますます高まっていますが、当社は、経営方針に掲げる「エネルギー・環境技術により、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献」のもとで、従業員ファーストを基調に、社会から、お客様から信頼され、必要とされる企業として更に成長してまいります。

地球温暖化が進行し、異常気象が頻発しております。株主の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますとともに、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年2月

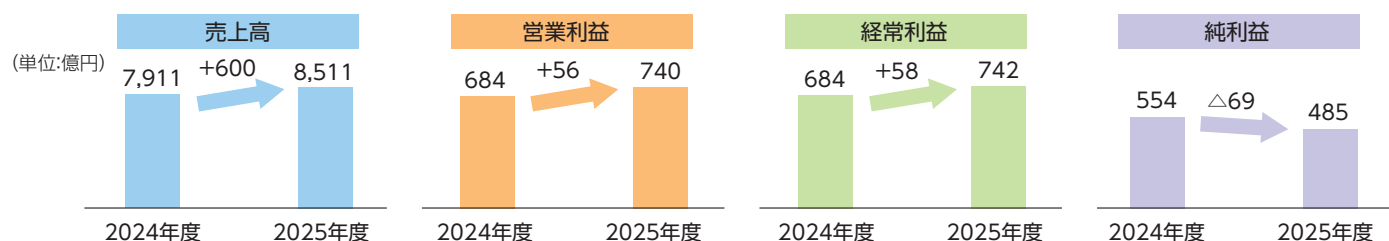
富士電機株式会社
代表取締役会長CEO

北澤通宏



第3四半期累計決算 (4~12月)

売上高、営業利益、経常利益は5年連続過去最高を更新



売上高

前年同期に比べ600億円増加の8,511億円となりました。

エネルギーはエネルギーマネジメントの蓄電システムや変電機器等の大口案件の増加、施設・電源システムのデータセンター向け需要の増加を主因に増収。インダストリーはITソリューションにおける文教分野の大口案件を主因に増収。半導体は電動車向けの需要が減少したものの、産業分野の海外における再生可能エネルギー向け等の需要の増加や為替影響等により増収。食品流通は店舗向け機器の需要が堅調に推移したものの、前年同期の改刷に伴う自動釣銭機の特需反動減や自販機の国内向け需要の減少により減収となりました。

営業利益

前年同期に比べ56億円増加の740億円となりました。

従業員の賃金・賞与の増額による人件費の増加や銀や銅の素材高騰、半導体の設備投資に伴う減価償却費の増加があったものの、プラントシステム案件の増収に伴う利益改善、コンポーネント品を中心とする高付加価値の商材投入による製品販売価格の値上げにより増益となりました。

純利益

前年同期の政策保有株式売却益の反動減を主因とし69億円減少の485億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2024年度実績		2025年度実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	2,340	203	2,611	331	271	128
インダストリー	2,888	171	3,213	197	324	26
半導体	1,667	215	1,727	150	60	△66
食品流通	855	123	796	93	△59	△30
その他	416	24	425	25	9	1
消去または全社	△255	△52	△261	△57	△6	△4
合計	7,911	684	8,511	740	600	56

決算や業績予想のご説明はこちら

富士電機 IR 説明会 **検索**

下の二次元バーコードからも
アクセスできます。



会社全体の業績予想は10月の発表値を据え置いています。

なお、セグメント別の業績予想（営業利益）について、足元の動向を踏まえてエネルギーを上方修正、素材価格（銀、銅）の高騰影響を踏まえ、インダストリーを下方修正しました。

(単位:億円)

	2024年度 実績	2025年度 (10/30予想)	2025年度 (1/29予想)	対前年 増減	対10/30 増減
売上高	11,234	11,850	11,850	616	
営業利益	1,176	1,285	1,285	109	
営業利益率	10.5%	10.8%	10.8%	0.4%	
経常利益	1,188	1,280	1,280	92	
純利益	922	890	890	△32	

変更無し

第4四半期の前提為替レート(10/30予想から変更なし)

USDドル	ユーロ	人民元
¥140.0	¥164.0	¥19.8

TOPICS

●蓄電システムの売上拡大

太陽光や風力などの再生可能エネルギーの普及に伴い、電力の需給調整に必要な蓄電システムの需要が増えています。

当社の蓄電システムは、市場価格予測機能と各メーカーの蓄電池の充放電を制御するノウハウで電力需給バランスを調整し、お客様の売電事業の収益性への貢献と、再エネの主力電源化を支えます。



GPD コスモソーラー(株) 三本松太陽光発電所

●配電盤・電源装置の生産能力を拡大

生成 AI の普及によるデータセンターや半導体工場の建設や高度経済成長期に納入した配電盤・電源装置の更新需要を受け、筑波工場（茨城県稲敷郡）の生産体制を強化します。

新棟建設と生産設備増強により、配電盤及び電源装置の生産能力を現状の 1.7 倍に拡大(2027 年 11 月竣工予定)し、旺盛な電力需要に応える安定供給体制を構築します。



筑波工場（茨城県稲敷郡）

●「気候変動Aリスト」に7年連続で選定

気候変動に対する 2025 年度の活動とその情報開示に優れた企業として、CDP※1 最高評価の「Aリスト企業」※2 に7年連続で選定されました。

自社工場における生産設備の省エネ化や再エネ活用によるCO₂削減に加えて、調達品のCO₂削減に向けてお取引先様との連携に着手したこと等、サプライチェーンにおける取り組みが評価されました。



※1 CDPについて

環境問題に高い関心を持つ世界の機関投資家や購買組織の要請に基づき、企業に環境問題対策と情報開示を求める国際非営利組織。

※2 CDPの評価

世界で22,100社超で評価が行われ、767社が気候変動のAリストに選定されています。

●当社の格付が「A+」に引き上げ

格付投資情報センター（R&I）により、当社の発行体格付が「A」（ポジティブ）から「A+」（安定的）へ一段階引き上げられました。エネルギー・環境事業を主軸とした収益基盤の強化が進み、収益力・キャッシュフローの創出力が着実に向上していることが高く評価されました。

株主様向け工場見学会を実施

株主様向け工場見学会を 2025 年 11 月に東京工場と鈴鹿工場で開催しました。約 1,800 名のご応募の中から、抽選に当選された 140 名の株主様が製造現場や展示室などをご覧になりました。今後も当社をより一層ご理解いただく機会として継続して実施します。



工場やプラントの設備を制御する機器を視察（東京工場）

お客様のCO₂削減に貢献する誘導炉の生産現場を視察（鈴鹿工場）



「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。

本報告書の将来についての戦略等に関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。